



良く手入れされた森林



間伐されていない森林。保水力がないため、災害が起こりやすい

間伐のススメ

「間伐」って？

間伐とは、混み合った森林から曲がったり弱ったりしている木や収穫の見込める木を伐採し、森林の中を明るく保ち、残された木の生長を促す作業です。

手入れをしないで森を放置すると？

間伐を行わず森林を放置していると、森林内の地面に日が当たらず、下草が生えなくなります。下草が生えないと、雨が降るたびに養分を含んだ土を洗い流してしまいます。また、木の生長に伴って森林も込み合うようになり、幹も太らなくなります。幹が細い木は、根をはる力も衰え、大雨が降ると根こそぎ流れてしまうこともあり、災害の要因にもなります。

間伐作業をサポートします

- 作業面積が0.5%以上の森林の場合
- 対象 5年間の育成計画をまとめた「森林施業計画」などを作成し、森林組合が実施する間伐事業。11～35年生、条件によっては45年生まで対象
- 補助内容 事業費の95%

里山の手入れをしませんか。

市では、里山の森林整備を目的に「小規模森林整備事業」を昨年度新設しました。面積が0.5%未満と比較的小さい里山の森林で行う植栽・雪起し・除伐・間伐・枝打ちなどが対象で、事業費の60%を助成します。

※間伐以外にも、植栽、除伐など森林整備を支援する制度があります。手続きなど詳しくはお問い合わせください。

問合せ 林務課
☎35-3143

自由化が段階的にスタート。39年には全面自由化となり、輸入量も年々増加していききました。安い外材に太刀打ちできなかつた国産材は、その需要を減らしていく、山の木を切らない、売らない、使わないという山の循環が途切れてしまう事態を招きました。

これまで森林を守ってきた山村にとって、問題は林業の衰退だけではありませんでした。都市化と経済の発展が過疎化に拍車をかけ、若者は都市部へ流出。

対象林の7割が 間伐されず

長い年月をかけて育まれる天

森林の荒廃と併せて地域活力の低下をもたらしました。その結果、受け継がれてきた技術や歴史・文化が置き忘れられ、「限界集落」と呼ばれる問題まで起こっています。

長期にわたる木材価格の低迷や担い手の減少、高齢化などで放置される森林は、今や全国的な問題となっているのです。

然林とは違い、数十年で造林された人工林は、適当な時期に伐採されないと、次代の森林造成にも支障をきたします。

木の生長にとっても、また、防災の面からも、間伐は重要な作業の一つです。しかし、高山市の民有林人工林のうち、間伐が必要となっている樹齢11～45年の森林の約7割がそのままの状態となっているのが現状で、手入れが行き届かずに荒廃する森林が増えてきています。